

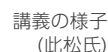
開催趣旨 大規模災害時の避難所の運営に関する講義や南海トラフ地震による津波を想定した避難所の実践的な運営の演習を通じて、地域の防災リーダーの防災・減災意識の高揚を図る。

和歌山県では、2014 年度から各市町村において講座を実施し、大規模災害時の避難所運営を円滑に行えるよう、運営主体となる自主防災組織の会長等、地域における防災リーダーや市町村職員を「避難所運営リーダー」として養成している。

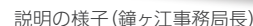
概要

- ①東日本大震災や熊本地震などの実例
- ②南海トラフ地震など大規模災害時の避難所の運営における課題（ニーズに応じた支援が不十分、女性や要援護者への配慮）
- ③地域住民など避難所運営関係者による平時および有事の協議やルールづくりの重要性

などについて解説がされた。

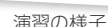
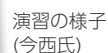


概	要
	①地震保険の基本的な仕組み ②損保協会の防災関連事業(ぼうさい探検隊など) ③損保協会の高齢者対応事業(高齢者交通事故防止、 契約トラブル防止) について説明がされた。



概要 講評では、

- ① 避難所の運営に決まった答えはなく状況によって変わること
- ② 女性・要援護者・外国人などへの配慮やコミュニケーションが重要であること
- ③ 避難所の運営には組織やルールづくりが重要であり、日頃から地域住民が中心となつて具体的な課題解決を協議しておくなどの備えが災害に強い地域づくりにつながることなどの説明がされた。



⑥講師による講評